

慶應義塾大学出版会

イチ押し

2022年11月新刊のご案内

哲学／ジェンダーで担当者さま

# 分析フェミニズム基本論文集

木下頌子（慶應義塾大学通信教育部非常勤講師）・渡辺一暁（在野研究者）・

飯塚理恵（エジンバラ大学哲学部博士課程在籍）・

小草泰（東京都市大学など非常勤講師）[編訳]

A5判並製／352頁 税込予価 3,520円 ISBN978-4-7664-2855-1 C3010

👉ココに注目！

- ・ 女のための哲学がここにある——。
- ・ 「女性」概念とは何か？ 性的モノ化とは何か？ ポルノグラフィはなぜ悪なのか？
- ・ 空前の盛り上がりをもせるフェミニズム哲学を代表する論文集！

「分析フェミニズム」分野の重要論文を紹介する作品。分析フェミニズムは、英米系の分析哲学と呼ばれる潮流の中で、フェミニズムに関する様々な問題に取り組む学問である。例えば、「女性」概念をどう定義すべきか、ポルノグラフィにはどんな悪さがあるのか、女性に対するバイアスはどんな不正義を引き起こすのか、といった問いに分析哲学の手法を用いて答えていく。

本書では、引用数の多い古典的な文献を中心に、形而上学・認識論・倫理学の主要トピックから、代表的な論文8本を選定。いずれも海外大学の授業で頻繁に使用されている必読論文である。単独の論文に関心のある読者はもちろん、分析フェミニズムの全体像を把握したい読者にも薦められる構成となっており、大学での入門講義テキストとしても最適である。

**対象** 分析哲学を専攻する研究者、フェミニズムに興味のある読者

**類書** 稲原美苗・川崎唯史・中澤瞳・宮原優編『フェミニスト現象学入門』（ナカニシヤ出版）

👉 **主要目次、注文書を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！**

## 【主要目次】

- ①サリー・ハスランガー「ジェンダーと人種——ジェンダーと人種とは何か？ 私たちはそれらが何であってほしいのか？」
- ②キャサリン・ジェンキンス「改良して包摂する——ジェンダー・アイデンティティと女性という概念」
- ③タリア・メイ・ベッチャー「邪悪な詐欺師、それでいてものまね遊び——トランスフォビックな暴力、そして誤解の政治について」
- ④ティモ・ユッテン「性的モノ化」
- ⑤ロビン・ゼン「イエロー・フィーバーはなぜ称賛ではないのか——人種フェチに対するひとつの批判」
- ⑥エリザベス・アンダーソン「社会制度の徳としての認識的正義」
- ⑦クリスティ・ドットソン「認識的暴力を突き止め、声を封殺する実践を突き止める」
- ⑧アリソン・ワイリー「なぜスタンドポイントが重要なのか」



**ご注文は FAX で！ 03 - 3451 - 3124**



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			木下頌子・渡辺一暁・飯塚理恵・小草泰 編訳 <b>分析フェミニズム基本論文集</b> ISBN978-4-7664-2855-1 C3010	3,520 円	★★★★★

### 関連既刊（ぜひ併せてご注文ください！）

返品条件付注文品	番線	ご注文部数	ケイト・マン 著／小川芳範 訳 <b>ひれふせ、女たち</b> —ミソジニーの論理 ISBN978-4-7664-2635-9 C3010	定価(税込)
			シーラ・ジェフリーズ 著／GCジャパン翻訳グループ 訳 <b>美とミソジニー</b> —美容行為の政治学 ISBN978-4-7664-2817-9 C3036	3,520 円
			マーサ・ヌスバウム 著／河野哲也 監訳 <b>感情と法</b> —現代アメリカ社会の政治的リベラリズム ISBN978-4-7664-1719-7 C3010	3,520 円
			発行所：慶應義塾大学出版会	5,280 円